

平成29年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成29年11月13日（月） 9時30分～11時00分
- 2 開催場所 宇都宮市役所14A会議室（14階）
- 3 出席委員 16名
河田委員長，村田副委員長，大川委員，初谷委員，船山委員，今井委員
金委員，榎渕委員，松本委員，山口委員，福田委員，高橋委員，加藤委員，
若園委員，増渕委員，小平委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 1名

6 内 容

(1) 報告事項

- ① 平成30年宇都宮市成人式について

(2) 協議事項

- ① 「第3次宇都宮市地域教育推進計画」の中間とりまとめについて
 - ・中間とりまとめ（概要版）
 - ・施策体系（案）
- ② 「（仮称）第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定について
 - ・「（仮称）第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定体制について
 - ・今後の読書活動推進の課題について
 - ・「（仮称）第2次宇都宮市読書活動推進計画」の骨子（案）について

7 発言の要旨

河田委員長	それでは、報告事項①「平成30年宇都宮市成人式について」事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
河田委員長	ありがとうございました。 それでは何か、御意見・御質問等ありましたらお願いします。
初谷委員	来賓の実施委員長招待で、例年中学校の先生方を招待されると思いますが、連絡が見つからないという報告はありませんか。ご退職された先生でご住所変わられた方など、この時代で個人情報の取り扱いも慎重になって調べるのも大変かと思しますので、例えば、卒業時に先生方の連絡先をいただいおくなどしておいたほうが良いのではないかな、と思います。

事務局	現在のところ、恩師の方と連絡がつかないといった報告は、実施委員の方から上がってきておりません。貴重なご意見ありがとうございます。
今井委員	実施委員会から出される催しの案として、どのようなものがありますか。私の地区では写真撮影くらいで終わってしまうのですが。
事務局	地域交流事業として、記念撮影はだいたいどこの会場でも実施されているようです。その他の催しとして、昨年の例では、新成人が作成したスライド上映、現中学生のよさこいの披露、ノンアルコールカクテルで乾杯などがございます。
今井委員	やりたい催しが、予算の関係でできなかった、ということはありませんか。
事務局	地域交流事業がおおよそ行える程度の予算額は交付金としてお渡ししていると考えており、予算の不足のため事業が十分に行えないといった相談は、実行委員会からは出ていない状況です。地域によっては、地域の企業等から協賛金を募って、その範囲で、各実施委員会独自の事業が行えているものと考えています。
今井委員	なぜ写真撮影になったかというのも、予算が減らされてしまっているからであって、予算が足りないから協賛金を募る、という流れになっていると思います。お金がかからないに越したことはありませんが、できるだけ、写真撮影だけで終わりという事にならないように、時間もお金も有効に使っていただければと思います。
河田委員長	予算が足りなくなると、事業が縮小してしまう事が懸念されているという事だと思いますので、そのようなことが無いように、ご検討いただければと思います。 他にございますか。
山口委員	私は泉ヶ丘中学校区の実施委員ですが、記念写真を送る郵送代がかかるため予算が厳しいということで、地区に一口3,000円で広告代として協賛を募り、ポスター等に協賛いただいた自治会や企業などの名前を全て記載して、「今回の成人式は、こういう方々が手伝ってくれていますよ」という形で会場に掲示しています。潤沢な予算があればいいのですが、市の情勢も厳しいという事で、3～4年前からこのようにしています。他の地区でもできる事だと思うので、ご紹介しました。
河田委員長	他にございますか。 ご意見等が無いようですので、議事を進めます。 協議事項に移ります。協議事項①「第3次宇都宮市地域教育推進計画」の中間とりまとめについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】

河田委員長

ありがとうございました。

それでは何か、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

初谷委員

基本目標Ⅱの25番「地域における学習支援活動の推進」については、学校としては大変ありがたいと思っています。具体的に、現在、魅力協で先んじて実施しているところがあればご紹介いただきたい。また、実施場所・施設や関わる人材についてどうしていくのか、イメージで結構ですので教えてください。

事務局

現在、先行して実施している地区が5か所あります。とちぎテレビで先日紹介されましたが、国本中学校では、地区内にお住まいで高校の数学の先生をされていて退職された方から、「何かできることはないか」と地区市民センターにご相談があって、そこに魅力協が入り、現在、地区市民センターで週1回、部活のない水曜日に実施しています。1～2時間程度、自習をしながら分からないところを聞くという形です。

国本中では地区市民センターでの実施ですが、他の4校では中学校を使用しているという状況です。場所については地域の実情に応じて、学校が使用できない場合には、地区市民センターのような公共施設を無料で使えるような支援であるとか、人材についても、大学の教育学部の学生さんなどにお手伝いをいただいている状況があるので、今後、大学等にご協力をお願いするなど、新たに学習支援を実施したい地区からご要望があれば支援できる体制を整えていきたいと考えています。

船山委員

基本目標Ⅱについてですが、現在活躍していただいている魅力協には学校として大変感謝をしています。加藤委員には、西原小と一条中でコーディネーターをしていただいておりますが、学校と地域人材の橋渡しを先駆的にやられていて、大変頼りにしています。魅力協の充実、ということもありますが、地域の方々にはばかり頼るのではなく、教員も自主的に役割を担う人材として、数年前から「地域連携教員」を配置していただいています。校務分掌に位置付けて、中心的に活躍してくれることを期待していますが、実質は副校長や教務主任がほぼ担っている状況です。担任を持っている教員が、授業の空き時間が1時間しかないところで、地域の方々と連絡調整などできるかという、非常に厳しい。そのような中で、「地域連携教員」は社会教育主事の有資格者が多いのですが、折角のスキルが活かされていません。県との連携になるかと思いますが、もっと活躍の場や役割、立場を明確にするなど、これからもっと目を向けて頂ければありがたいと思います。

事務局

地域連携教員の配置については、研修と名簿が県から送られてきていますが、委員からご意見がありました通り、実際に動かしているのは副校長がほとんどという状況です。社会教育主事という事で、コーディネーターの役割ができる人材であり、この計画を通して、社会教育主事に期待される部分はかなり大きいところですので、大事な意見として、何ができるか検討していきたいと思います。

河田委員長

他にございますか。

小平委員

2点お伺いします。

計画全体として、時代の潮流で超高齢化社会は避けて通れない、今後10年・20年で高齢化率はどんどん上がっていくという状況の中で、地域の中での支え合いがこれから重要となってくると思いますが、施策の体系の中で見えてこないことが気になりました。福祉部門でも養成講座や認知症対策など、いろいろな講座があると思いますが、そうしたものと連携はどう読み取ったらよいのか教えていただきたい。

2点目として、41番「歴史文化資源周知啓発事業」が新規で位置付けられていますが、これは大切なことだし、いい事業だと思っています。先月、歴史文化基本構想を作成している大分市に伺いました。南蛮文化と大友宗麟をストーリーとして作っていて、小学生向けに副読本を作って教育に活かされています。これは地域のアイデンティティを形成するためにとっても重要な教育であります。副読本などの作成も含め、分かりやすさをどのように表現しようと考えているか教えてください。

事務局

1点目の、超高齢化を意識している事業ですが、基本目標Ⅰの新規事業「健康づくりを支援する取組の充実」については、長寿命化を意識している事業であります。また、施策3「今日的課題に対応した取組の推進」の16番「学び直しの支援」については、社会の変化が激しいことありますが、超高齢社会の中で、「生きなおし」「二度人生を生きる」というような状況でありますので、関係機関と連携しながら進めていきたいと考えています。更に、基本目標Ⅲの30番「学習成果を活用した講座等の推進」につきましては、一人ひとりが持つスキルを生かして活動をしたい人を支援し、生きがいを持っていただければと考えています。

文化課長

2点目について、本市におきましても、昨年度から本年度、2年かけて歴史文化基本構想を作成中であります。策定にあたっては、3,800件のデータ収集や、5回のワークショップで市民の皆様のご意見や地域の状況をお聞かせいただく中で、今まで目が向けられていなかったけれども、各地域にも大切な資源、地域の方々大切に守りつないできたものが、指定文化財ではなくても沢山あることが分かりました。現在、「宇都宮の歴史を紐解く8ストーリー」を構想の中で作っています。市民のアンケートにおいて、宇都宮の歴史文化に誇りを持ちますかという問いに、「そう思う」と答えた方は26%程度であり、半数以上が「わからない」という状況です。宇都宮の歴史や文化を市民が知らないという事自体が問題ですが、その反面、分かりやすく伝える努力をしていかなければならないと思っています。宇都宮に人が集まり続けたのが、地勢・安定した大地であり、関東平野の里山都市として豊かな自然と都市文化が混じり合っ文化が形成されてきました。なぜここに人が住み続けてきたかや、先日、県立博物館で「宇都宮氏展」がありましたが、宇都宮氏がどういう活躍をしたか、大谷石と宇都宮市民の関わりなど、謎解き形式で市民にも分かりやすいストーリーを8つ作っています。学校教育でも「(仮称)宇都宮学」を新たに考

えていこうと協議しているところですが、学校教育や生涯学習の中でも「分かりやすい歴史」をきちんと用意して市民に伝えていく努力、あるいは来訪者の方にも分かる様な情報発信にも取り組んでいきたいと考えています。地域の中でも、例えば富屋地区では、地域の方が新任の教員を地域資源へ案内するような取組をしておりますが、地域ビジョンを作っていく作業を通じて意識が芽生えてくるなど、そういったところと連携して支援できるような体制というのをも併せて、両方の面から支援できるような取組を進めていきたいという事で方針づくりを進めています。

小平委員

高齢者の部分については、なるべく見えるような形になるように、地域で実際に活動している方や、学ぶ機会がほしいと思っている方にも分かるように出し方を工夫していただきたいと思います。

また、宇都宮市民が自分たちの歴史をあまり知らない、というのは、歴史の整理が、今までどういう流れなのか分かりにくかったという事もあると思います。期待しています。

河田委員長

基本目標Ⅲの施策7にある「人材バンク」について、県でも人材バンクの登録を新しくした部分がありますが、実際に登録した方がどの位いて、実際にその人たちが活躍しているのでしょうか。登録したけれども、実際の活動としては、待っているのに何も来ないということ聞いた事があります。宇都宮市の場合はどうですか。

事務局

現在、主に趣味・教養の団体・サークルや講師が登録しており、登録情報については、人材かがやきセンターで取りまとめを行っています。活用については、各生涯学習センターなどの身近な窓口には、その地域に転入してきた方や子育て中のお母さんなどが、地域にサークルがあるかなど、ご相談いただいてご案内することがほとんどであり、システムを通してのマッチングは、大変少ない状況となっています。

河田委員長

様々なところで学習して、あるいは指導者やリーダーなどの人材を養成して、そういう方が登録をするという事が沢山あるかと思いますが、実際に活動される方が少ないという事は、もっと充実した、活躍できるような使い方を検討していかなければいけないという事だと思います。計画の中にもあるように、企業や大学との関わりが最近多く出てきていますが、その中には様々な人材がいるので、今後益々発展していくものだと思う。

若園委員、市との連携について、宇大の方ではどうでしょうか。

若園委員

宇大で市との連携というと、地域連携センターが主に取り組んでいると思いますが、私の方では、社会教育主事関連などで連携を行っています。人材バンクについては各先生方で行っているような状況です。

河田委員長

大学などと連携をすると、様々な部分でクリアできる事もありますし、広がりも出てくると思いますので、これから活用していただければと思います。

船山委員	<p>人材の活用について。学校として様々な人材を求めています、リストだけでは声をかけません。その方がどんなスキルを持っていても、人なりが分からないからです。どのような方なのかをもって、教育効果があるか、学校のねらいが達成できるかという判断をします。ですので、コーディネーターの推薦を頼りにしています。市にも、その方がどのような方なのかを問いかけたときに、しっかりお答えいただけるように、把握をしていただけると、お声をかけやすくなるかと思います。</p>
河田委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。他にございますか。</p>
大川委員	<p>高校の立場から。小中学校などで折角地域とつながっていた子どもたちが、高校に上がると、地域の意味合いが変わってしまう部分がありますが、学校が所在する地域とのつながりは大変重要だと考えています。高校によって立場はいろいろかと思いますが、地域の中学校に通う子が、近隣の高校に入学しています。そういった子どもたちに是非声かけをしていただきたいと思います。様々な情報提供によって、高校生は企画する側でも関わることができます。いずれは大学生、親になっていく世代なので、切れ目なく連携していくことがとても大切だと思います。県を通すと話が長くなることもあるかもしれないので、地域ごとに、地域にある高校を活用していただくことが、高校生にとっても自己有用感や自己肯定感を育む良い機会になります。雀宮地区はそのような活動が盛んで、本校生が経験を通して多くの事を学んでいます。連続性という点で、中学校区ごとに、是非働きかけをしていただけるとありがたいと思います。</p>
河田委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>高校を出て、大学進学などで県外に出ても、また帰ってくる子が結構いますが、高校生の時にジュニアリーダーで地域活動を頑張っていたのに帰ってくると何も無い、というような事をよく聞きます。帰ってこられる場所や、進学しても就職しても活躍できる形として高校生を活用していただくと地域の活性化につながるのではないかと思います。</p> <p>その他ございますか。</p>
高橋委員	<p>まちづくりの関係で何点かお伺いします。</p> <p>1点目として、地区市民センターには生涯学習センターが併設されていると思いますが、市の中心となる中央の生涯学習センターがあって、地域は中央から情報をもらって運営していて、地域に根付く歴史的な講座などを行っている、という実態があります。ICTに対応した取組が新規事業として入っており、これから重要になってくるという認識をされているのだらうと思いますが、そこで、人材の単なるデータベースではなく、中身が見える、どのような人なのかもパソコンで検索すると分かる様なデータベースの構築が必要ではないでしょうか。</p> <p>2点目として、学習は、地域と教育機関と人材の3つで成り立っていると思います。地域の実態として、地域で人を集める大きな講座は持ちにくいのが現状です。</p>

中央で企画するものを地域で開く道はないでしょうか。常に中央ではなくて、バランスをとった運営が必要でないかと感じます。

3点目として、学校、特に小学校との連携が地域で多くなってきています。その中の、宮っ子ステーションにお世話になる人が増えていて、多くの親御さんが働く機会を持っているという事だろうと思いますが、それに伴って、1人あたりのスペースが少なくなっている感じがします。増築なり、何らかの対応が必要と思いますが、お考えを伺います。

事務局

1点目のICTを活用した講師紹介については、本市人材バンクの課題として、個人情報保護の観点で、登録する方の連絡先が非公開となっていて、生涯学習センターを通して連絡を取る形になっているということがあります。中にはICTを使って自分のできる内容をきちんと紹介したい人もいますので、今後、視点に入れていきたいと思っています。

2点目について。親学などは出前講座で様々な場所で実施しておりますが、地域の人にとって一番身近な施設は小学校などであるので、基本目標Ⅱの28番の事業「学校を場とした地域の交流促進」において、身近な場所を使って、交流だけでなく講座などもできればと考えている

3点目について。宮っ子ステーション事業のうち子どもの家・留守家庭児童会事業については、平成27年4月から子ども子育て支援新制度が施行され、新しい仕組みの中で事業を実施しています。新制度施行に伴い、事業実施場所の児童一人当たりの面積基準1.65㎡が厳格化され、本市ではこの基準を満たすために新たな実施場所を確保しているところですが、厚生労働省と文部科学省から、面積基準の確保のためには、まずは学校の空き教室等を有効に使うべきだという指針が示されました。そのため、既存の独立棟に加えて、できる限り学校施設の空きスペースの有効活用によって実施場所を確保しています。それが叶わない場合は、新たな独立棟を建設しているところであり、現在は面積基準の1.65㎡を満たした形で全ての事業が行われています。

河田委員長

ありがとうございます。

では、時間となりましたので、次の議題に進みます。

協議事項②「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定について、事務局から説明をお願いします。

中央図書館

【資料説明】

河田委員長

ありがとうございました。

それでは何か、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

高橋委員

計画期間については5年間という事ですが、総合計画は10年間となっていて、整合を図るという説明でした。この点について整合は取れているのでしょうか。

中央図書館 個別の事業計画については5年間でよいことになっており、本計画は事業計画で、10年間を見通しての策定は非常に困難でありますので、5年間としております。また5年後、上位計画の状況なども勘案して改定をする予定です。

河田委員長 ありがとうございます。他にございますか。

若園委員 レファレンスサービスをどのくらい市民が利用しているか、数値的なデータはありますか。

また、高校生や大学生が主体的に学んでいく上で、レファレンスサービスは大変重要なものだと考えています。ただ、根本的なところで、基本理念を見ても、パッと見て分からないと感じました。ネーミング的に、これだったら使ってみようという形で伝わって来ない。「レファレンス」についても、図書館の関係の方は分かると思いますが、一般的には「何をするものですか？」という人が多いと思います。愛称でも何でもいいのですが、分かりやすく、使ってみようと思える名称を考えてみたらいかがかと思います。そういうことが、地域の教育力にもつながっていくのだと思います。

中央図書館 ネーミングについては非常に悩ましく、これまでもレファレンスサービスについて「相談窓口」や「？」などの表示をしたりしておりますが、なかなか良い名称となっていないのが現状です。日本名では「調査相談」となりますが、どうしたらより一層市民の方にご理解いただける表現となるか、検討しながら計画の改定を進めていきたいと思っております。

レファレンスの件数については、28年度の実績で、難しいものが5館合わせて1,756件、簡単な所蔵調査や身近な質問については46,671件となっており、多くの方にご利用いただいています。一般開架や児童室等でも、皆様のご質問にお答えできるように職員を配置していますので、是非ご利用いただきたいと考えています。

河田委員長 レファレンスの件数が出ましたが、レファレンスサービスに関わる対応をしている専門の職員の方たちが、実際にこの件数に対応するにあたって、忙しくてどうしようもないのか、余裕がある状態なのか、教えてください。

中央図書館 中央図書館では、1件の調査に何時間も要するものが多く、担当者の感覚としては、とても忙しいという状況であると思っております。

河田委員長 ありがとうございます。他にございますか。

河田委員長 読書活動だけに関わらず、様々な分野で「乳幼児期から」という話が出てきています。また、学習の問題や体力向上の問題について、栃木県では特に大きな問題になっています。様々な施策・計画で取り組んでいると思いますが、この計画で、なにか具体的に考えているものはありますか。

中央図書館

読書活動において、乳幼児期については検診の時にお勧めの本のリストを配布しています。また、図書館において、赤ちゃん向けのお話会や年齢別のお話会を開催していますが、今後は、図書館だけでなく、外部の施設に職員が出向いて本の楽しさ、読書の大切さを伝えていきたいと考えています。小中学校については、かなり手厚く取り組まれているため、小中学生の読書量は非常に多い状況です。今後は、さらに大きくなって忙しくなっても、また読書に戻って来られる、また本を読むようになるような働きかけを、まだ具体的なものはございませんが、検討しているところです。

河田委員長

素晴らしい計画を立てても、その内容について、市民がどのくらい理解をしているか、或いはどのくらい情報を得ているか、という問題があります。市民が「知らなかった」「こんなのあったの」というものも、行政側からすると常に出している、という事があります。予算の関係もあるかと思いますが、市民の方たちがきちんと情報を得られるような広報などの工夫が必要ではないでしょうか。図書館は気軽に行ける、買わなくても図書館には本や絵本が沢山あって気軽に読める、という事が広がっていけば、もっと利用が増えていくと思います。もっと多くの人に伝達する工夫について、お願いします。

河田委員長

他にございますか。

無いようですので、以上で私の進行を終了させていただきたいと思います。
皆さん御協力ありがとうございました。

事務局

河田委員長、進行ありがとうございました。

それでは、次第「その他」になります。

事務局より連絡事項について説明させていただきます。

【配布資料および、次回の会議日程について説明】

本日は長時間に渡ってのご審議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、平成29年度第2回社会教育委員の会議を閉会いたします。